

20世紀の豫言①

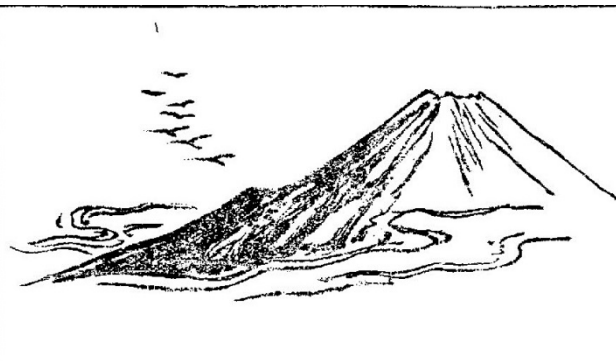
1901年1月2日発行【報知新聞】

五回の丑年に比すれば、絶危絶なること、應元年の時に相當すべく、本年は寧ろ一歩を進めたるの凶運なる故、最も戒心を要す理也。

▲厄避けの法 扱て如何にせば此厄を避くべきか、本年の吉方は正北に如くものなきを以て、黄道吉日を選びて居るを正北に移し、大政に就ては五黄、二黒、八白、一白の人を信じて協議するを可とす。(星亨氏も五黄入りと云ふものあり、五黄とて無理は寧ろべからず、閣員中には心術剛正なる加藤弘明氏宜しからん能く思慮あるべし)

工業 たより

▲白熱電球製造近況 嘗て紹介せし電氣學者藤岡博士の經營せる東京電氣會社の白熱電球製造事業は漸次其歩を進め、日下は毎月電球五十万個を製造し得るに至り、東京電氣會社を始として其他の電燈會社も漸く同社製品の舶來品に勝るものありとす。



ことを認識し、横濱の外人を除く、同社の製品を用ゆることとなり、殆んど外國品を驅逐したりと云ふ左れを猶非人にして、一物に同店の製品を排斥するものあれば、這は電の不完に因るものにして、電球の良否をわらず要するに製造の便利は云ふ迄も、單に電球其物の外國品に劣らざることは、もとて進歩する處なりと、藤岡博士は言へり。

二十世紀の豫言(一)

十九世紀は既に去り人も世も共に二十世紀の新舞臺に現はるゝこととなり、十九世紀に於ける世界の進歩は頗る驚くべきものあり、形而下に於ては「蒸氣力時代」「電氣力時代」の稱あり、形而上に於ては「人類時代」「婦人時代」の名あることなるが、更に歩を進めて二十世紀の社會は如何なる現狀をか呈出するべき、既に此三四十年間に

は佛國の小説家ジュール・ヴェルヌの豫言が二十世紀の豫言めきたる小説をものして、讀者の喝采を博したることなるが、若し十九世紀の進歩の勢力にして年と共に愈々増加せんか、今日なほ不思議の感の中に在るもの漸く、其大時期の冒頭に立ちて遙かに未來を豫言するも亦た快ならずとせず、世界列強の勢力の變動は先づさし描きて暫く物質上の進歩に就きて想像するに

▲無線電報の發見 マルコニ氏發明の無線電報は一層進歩して、只だに電信のみならず、無線電報は世界諸國に聯絡して東京に在るものが倫敦に在る友人と自由に對話することを得べし

▲遠距離の寫眞 數十年の後、歐洲の天に飛雲晴騰たるものとあらん、東京の新聞記者は、編輯局にのみならず、電氣力によりて其狀貌を早取寫眞となすことを得べく、而して其寫眞は天然色を現象すべし

▲野獸の被殺 福刺利加の野野に到るも、獅子虎豹等の野獸を見ること能はず、彼等は僅に大都會の博物館に餘命を續ぐべし

▲サハラ砂漠 サハラの大砂漠は漸次沃野に化し、東半球の文明は漸々支那、日本及び亞弗利加に於て發達すべし

▲七日間世界一週 十九世紀の末年に於て、雖くとも八十日間を要したりし世界一週なるべく、廿世紀末には七日を要すれば足ることなるべく、廿世紀末の人民は男女を問はず必ず一回以上世界一週をなすに至らむ

▲空中軍艦 空中砲臺 チェツパリン式の空中軍艦は大に發達して、空中に軍艦隊の空中に修練場を出現すべく、從つて空中に砲臺、浮空の奇觀を呈するに至らん

▲救及毒の滅亡 衛生事業進歩する結果、救及毒の類は漸次滅亡すべし

▲新器械發明せられ、暴雲を調和する爲に適宜の空氣を送り出すことを得べし

▲亞利非加の進歩も此爲なるべし

▲植物と電氣 電氣力を以て野菜を成長することを得べく、而して豌豆は極大となり、菊牡丹薔薇は綠葉等の花を開くものあるべし

▲北極帯のグリーンランドに熱帯の植物生長するに至らん

▲八黎十里に達す 傳聲器の改良ありて、十里の遠きを隔てたる男女互に眺々たる情話となすことを得べし

▲寫眞電話 電話口には對話者の肖像現出するの装置あるべし

▲買物便法 寫眞電話によりて、遠距離に於てある品物を鑑定し、且つ買物の契約を成へ、其品物は地中配管の装置によりて即時に着手することを得ん

▲電氣の世界 薪炭石炭共に竭き、電氣之に代りて燃料となるべし

▲無線電報の發見 マルコニ氏發明の無線電報は一層進歩して、只だに電信のみならず、無線電報は世界諸國に聯絡して東京に在るものが倫敦に在る友人と自由に對話することを得べし

▲遠距離の寫眞 數十年の後、歐洲の天に飛雲晴騰たるものとあらん、東京の新聞記者は、編輯局にのみならず、電氣力によりて其狀貌を早取寫眞となすことを得べく、而して其寫眞は天然色を現象すべし

▲野獸の被殺 福刺利加の野野に到るも、獅子虎豹等の野獸を見ること能はず、彼等は僅に大都會の博物館に餘命を續ぐべし

▲サハラ砂漠 サハラの大砂漠は漸次沃野に化し、東半球の文明は漸々支那、日本及び亞弗利加に於て發達すべし

▲七日間世界一週 十九世紀の末年に於て、雖くとも八十日間を要したりし世界一週なるべく、廿世紀末には七日を要すれば足ることなるべく、廿世紀末の人民は男女を問はず必ず一回以上世界一週をなすに至らむ

▲空中軍艦 空中砲臺 チェツパリン式の空中軍艦は大に發達して、空中に軍艦隊の空中に修練場を出現すべく、從つて空中に砲臺、浮空の奇觀を呈するに至らん

▲救及毒の滅亡 衛生事業進歩する結果、救及毒の類は漸次滅亡すべし

▲新器械發明せられ、暴雲を調和する爲に適宜の空氣を送り出すことを得べし

▲亞利非加の進歩も此爲なるべし

▲植物と電氣 電氣力を以て野菜を成長することを得べく、而して豌豆は極大となり、菊牡丹薔薇は綠葉等の花を開くものあるべし

▲北極帯のグリーンランドに熱帯の植物生長するに至らん

▲八黎十里に達す 傳聲器の改良ありて、十里の遠きを隔てたる男女互に眺々たる情話となすことを得べし

▲寫眞電話 電話口には對話者の肖像現出するの装置あるべし

▲買物便法 寫眞電話によりて、遠距離に於てある品物を鑑定し、且つ買物の契約を成へ、其品物は地中配管の装置によりて即時に着手することを得ん

▲電氣の世界 薪炭石炭共に竭き、電氣之に代りて燃料となるべし

20世紀の世界予想 (1901年発行の報知新聞より)

- ・無線電信、電話の発達で、東京にいる人がロンドン、ニューヨークの友人と自由に対話できる。
- ・ヨーロッパでの出来事を写した写真は、カラーで東京の新聞社に送れる。
- ・19世紀には80日を要した世界一周の旅は20世紀末には7日で可能に。
- ・空中を軍艦が飛び、大砲も空に浮かぶ。
- ・新しい器機が暑さ、寒さを調節する。
- ・写真電話により、遠距離にある品物のショッピングができる。
- ・馬車に代わって、自動車が普及する。
好奇心の強い者だけが馬を飼育する。

